

“就職しない”卒業生が増加 国試低合格率を反映か

薬学教育協議会調査

薬学教育協議会がまとめた「2015年3月薬系大学卒業生・大学院修了者就職動向調査」によると、6年制薬学部73大学（74学部）の卒業生の進路は、薬局が最も多い傾向に変わりはなかったが、就職しなかった学生の総数が1559人と、昨年度の1019人に比べて大幅に増えたことが分かった。このうち、進学者は約7割減少したのに対し、

非就職者と未定の合計は1367人と昨年度の743人から1.8倍増となった。第100回薬剤師国家試験の合格率の低さを反映したもので、同協議会は「進学者の減少と非就職者の増加は、薬学の将来にとって憂慮すべき傾向」と警鐘を鳴らしている。薬学生も就職が難しい時代に入りつつあるという認識を持つ必要があるだろう。

調査は、6年制第4期生を輩出した薬系大学をはじめ、全国の国公立薬系大学73大学（74学部）から回答を得た。卒業生総数は8769人で、昨年度に比べて234人増加した。男女別に見ると、男性が3528人、女性5241人

だった。このうち、大学が進路を把握していた就職者は7210人で、卒業生の82.2%となった。就職率は昨年度に比べて5.9%低下し、特に男性では79.7%と8割を切った。就職しなかった人の総数は

1559人で、13年度の742人、昨年度の1019人に比べて大幅に増えた。その中で、進学者が170人と、昨年度の246人に比べて約7割も減ったのに対し、非就職者と未定の人の合計は1367人と、昨年度の743人から1.8倍も増えた。

非就職者と未定の人の割合は全体の15.6%を占め、1割を大きく突破した。これは、第100回薬剤師国家試験の合格率が63.17%と低かったことを反映したものであり、同協議会は「薬学の将来にとって憂慮すべき傾向」と警鐘を鳴らした。

6年制卒業生の就職先を見ると、最も多かったのは薬局の2846人で、32.5%を占めた。ドラッグストアなどの一般販売業の405人、卸売販売業の62人を合わせると約4割に上る。次いで、病院・診療所薬局の2346人（26.8%）となった。

これに対し、医薬品関連企業に就職した人は、「開発・学術」が286人と3.3%にとどまり、「医薬情報担当者」（MR）の410人、「研究・試験・製造」の162人を含めても、合計895人と全

➤

患者から頼られる存在に

地域密着の薬剤師を目指す

「地域密着の薬剤師になりたい」と語る藤本智之さん。神戸市内の「マリンハート薬局」に勤務し、管理薬剤師として多忙な業務をこなしている。患者から「兄ちゃん」と親しみを込めて呼ばれるキャラクターを武器に最近、様々な相談を受ける機会が多くなった。今以上に頼られる存在になりたいと奮闘する日々だ。

マリンハート薬局 藤本 智之さん

2008年に神戸学院大学薬学部を卒業。奨学金を得ていた薬局に就職し、大病院前の大型薬局で働き始めた。働きやすい職場だったが、「患者さんと話すのが楽しい」と感じていた藤本さんは次第に、環境を変えたいと思うようになった。多数の薬剤師が多数の患者に接するため、継続的に同じ患者と接することができなかったからだ。

また、今日は取り揃えだけ、明日は鑑査だけと、業務を分担して作業のようにこなす環境にもなじめなかった。将来は、薬剤師の業務だけでなく、企業組織の一員としてマネージャーや教

育担当者の経験を積みたいとも考えるようになった。

自分がなりたい姿を改めて自覚した藤本さんは転職を決意。12年に調剤薬局マリングroupに入社した。同グループは関西を中心に130薬局以上を展開し、200薬局を目指して持続的に成長している勢いのある企業だ。傘下には地域密着を目指す小規模薬局が多いため、「地域に受け入れられ、かかりつけの薬剤師を目指せると思った。自由な社風で、様々な経験を積みそうだと感じた」と振り返る。

神戸市長田区の薬局勤務を経て約2年前から、神戸市中央区の「マリン



ハート薬局」で管理薬剤師として勤務している。近隣の内科診療所を中心に、地域の小児科患者らの処方箋も応需し、外来患者数は1日約40～50人。顔なじみの患者が増え、頼られていると実感する機会が多くなった。

藤本さんが薬局にいと「兄ちゃんの先生おるか」と電話がかかってくる。声を聞けば自然に、患者の顔が浮かぶ。「前にもらった薬やけどこれ飲んでいいか」。状況を聞き、適切な対応を助言する。

ふらっと薬局に立ち寄り、「眠れないけれど、どんな睡眠剤があるのか」など、医師には遠慮して話づらいことを気軽に尋ねる患者も少なくない。ある時、糖尿病患者から「最近あくび

が多い。だるい気がする」と聞いた。詳しく聴き取るとどうやら低血糖症状らしい。症状発現時の対応を改めて説明し、事なきを得た。

「家族の病気のことや診療所選びなど、お薬以外の相談を受けたり、処方箋を持たなくても薬局に来てくれたり、電話をかけてきてくれたりすると、やりがいを感じる。この地域にはあの人がいる、と思って頼ってもらえるのが理想」と話す。

薬学生に向けて藤本さんは「薬局薬剤師の基本的な業務はそれほど変わらない。そこから1歩先、自分が何をしたいのかを考え、やりたいことがかなう会社を選んだらいい」とアドバイスを送る。

藤本さん自身は「もっと街のことを知って地域密着を目指したい。健康食品や美容など幅広い知識も備えたい」。社内の勉強会を主導したり、薬事日報社発行の書籍「現場目線の処方解析」の原稿作成に加わったりするなど、企業組織の一員としての活動にも力を入れてきた。現在の経験を生かして将来は、各店舗のサービス向上をアドバイスする「マネージャーの仕事も経験したい」と語る。

なりたい自分になれる！チャレンジ精神を大切にしてくれる自由な社風の会社です♪



共に高め合うことのできる仲間たち



単独説明会・店舗見学
随時開催中♪



地域の雰囲気にも密着した店舗作り



マリングroup
〒679-4154 兵庫県たつの市揖保町西構 179-3

TEL: 0791-67-2028
FAX: 0791-67-2008
Mail: info@marinegroup.co.jp

URL: <http://www.marinegroup.jp/>
マイナビ・ファーストなど就職情報
サイトにも企業ページ掲載中